

第2回 大和郡山市学校規模適正化等審議会 次第

1. 日 時

平成30年 8月21日（火） 午後2時開会

2. 場 所

市議会第1委員会室

3. 案 件

(1) 将来人口推計と土地利用構想について

(2) 学校長へのアンケート調査について

(3) 視察について

① 治道小学校

② 郡山東中学校

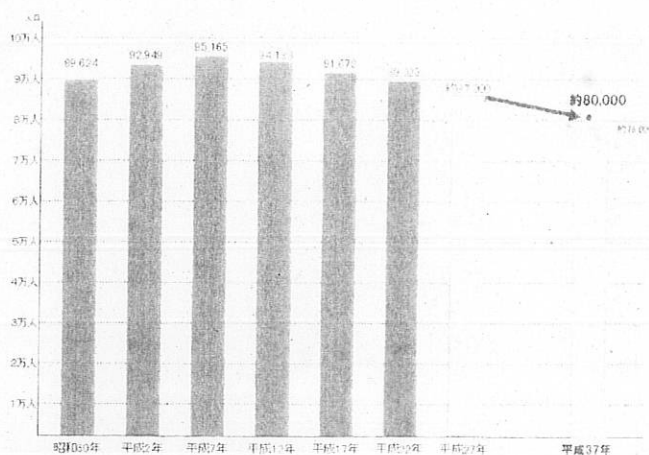
(4) その他

●将来人口推計と土地利用構想●

1. 将来人口推計

(1) 大和郡山市第4次総合計画（市条例に基づく）

大和郡山市第4次総合計画では、平成72年（2060年）までの計画期間を持つ大和郡山市人口ビジョンを踏まえ、平成37年（2025年）時点において7万8千人程度に減少する見込みの中においても、8万人を維持することを目指し施策を展開します。



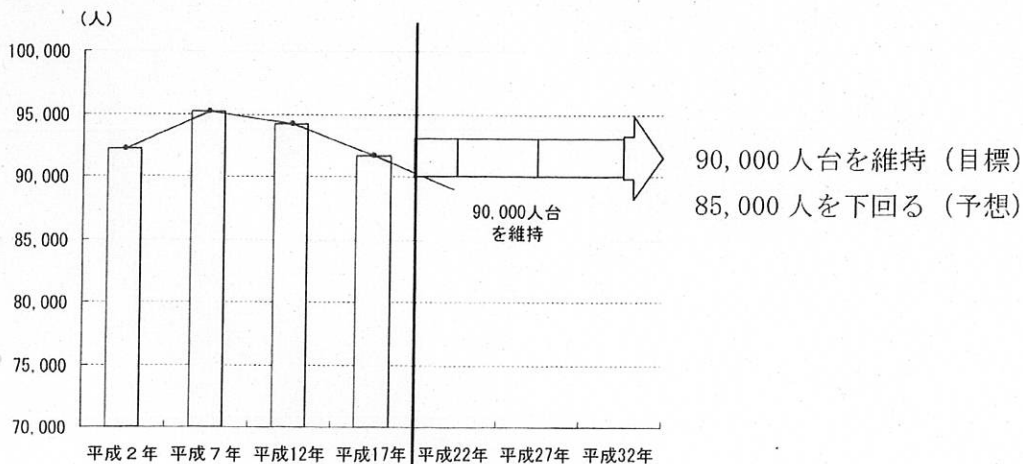
(2) まち・ひと・しごと総合戦略（まち・ひと・しごと創生法）

表 12 基本ケースと目標ケースの人口構成比率の比較

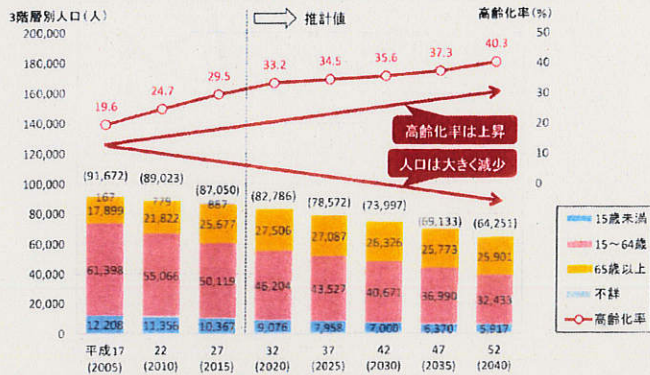
■基本ケース	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総人口(人)	89,023	87,000	82,786	78,572	73,998	69,133	64,252	59,491	54,954	50,467	46,048
<年齢区分別・人口構成比率>											
・年少人口(15歳未満)	12.8%	12.0%	11.0%	10.1%	9.5%	9.2%	9.2%	9.1%	8.9%	8.6%	8.3%
・生産年齢人口(15～64歳)	62.4%	58.0%	55.4%	55.4%	55.0%	53.5%	50.5%	49.4%	49.0%	48.9%	49.0%
・老年人口(65歳以上)	24.8%	30.1%	33.2%	34.5%	35.6%	37.3%	40.3%	41.5%	42.2%	42.5%	42.7%
・75歳以上人口	10.9%	13.8%	17.5%	21.5%	23.6%	23.8%	24.1%	25.4%	28.5%	29.5%	29.6%

■目標ケース	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総人口(人)	89,023	87,000	83,637	80,274	76,903	73,526	70,360	67,562	64,975	62,467	60,058
<年齢区分別・人口構成比率>											
・年少人口(15歳未満)	12.8%	12.0%	11.6%	11.5%	11.6%	12.1%	12.9%	13.7%	14.2%	14.5%	14.5%
・生産年齢人口(15～64歳)	62.4%	58.0%	55.5%	54.8%	54.2%	52.9%	50.3%	49.7%	50.0%	50.8%	52.1%
・老年人口(65歳以上)	24.8%	30.1%	32.9%	33.7%	34.2%	35.0%	36.8%	36.6%	35.8%	34.7%	33.4%
・75歳以上人口	10.9%	13.8%	17.3%	21.0%	22.6%	22.2%	21.8%	22.1%	23.8%	23.6%	22.5%

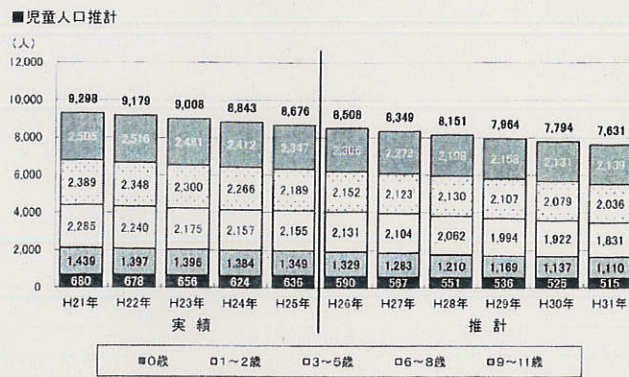
(3) 大和郡山市都市計画マスタープラン（都市計画法第18条）



(4) 大和郡山市立地適正化計画



(5) 子ども・子育て支援事業計画（子ども・子育て支援法第61条）



※どの計画においても、程度の差異はあるものの、今後子どもの人口は減少し、規模縮小になっている。

2. 土地利用構想

(1) 都市計画マスタープラン

①現行 土地利用規制（資料1）

市街化区域及び市街化調整区域等により秩序ある土地利用の規制誘導を図る。

②将来 土地利用方針図（資料2）

適切な土地利用を計画的にするための、土地利用の基本的な考え方

※①と②で大きな差異はなく、行政による大きな宅地開発等の土地利用計画は示されていない。

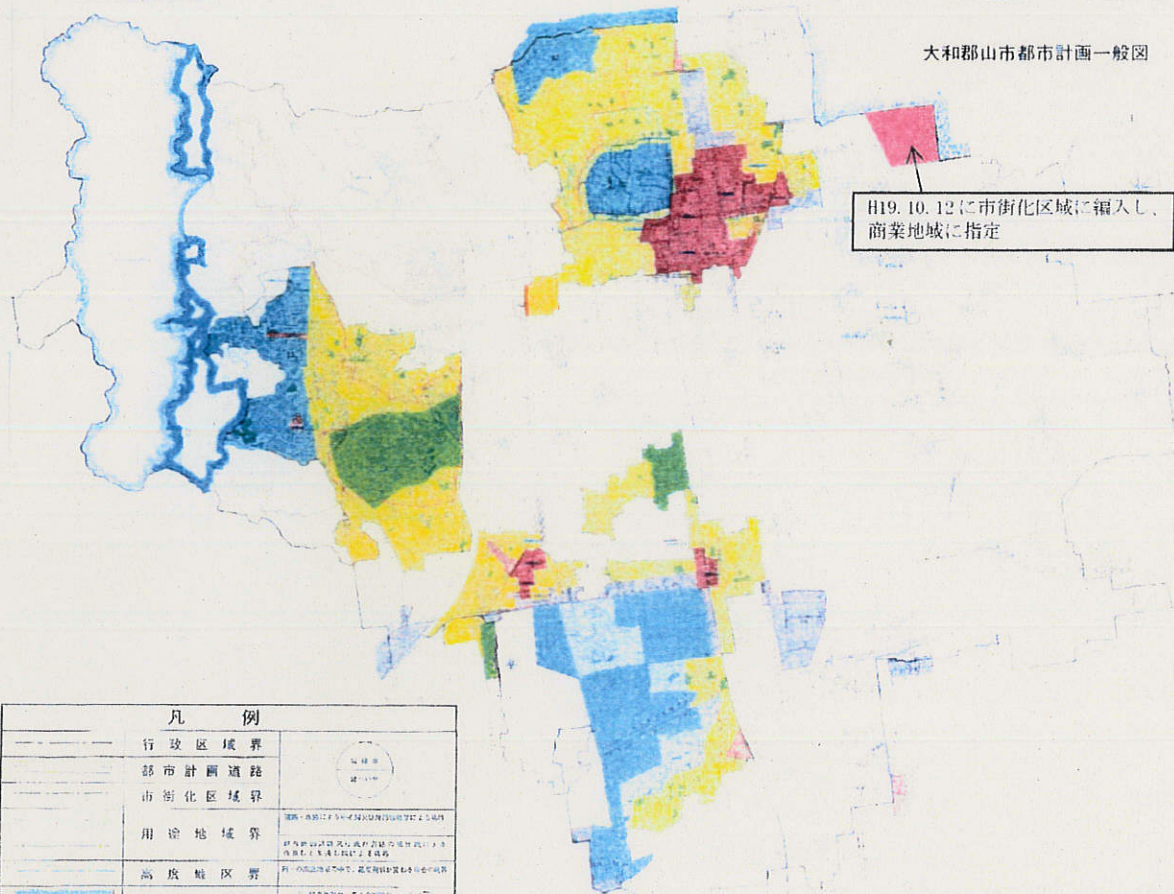
(2) 大和郡山市立地適正化計画

人口減少社会を見据え、効率的な居住機能や都市機能の誘導を進め、コンパクトシティの形成に向けたまちづくりに取り組む

※行政による住居系の土地利用拡大に向けた施策の計画は見受けられません。

(6) 土地利用規制

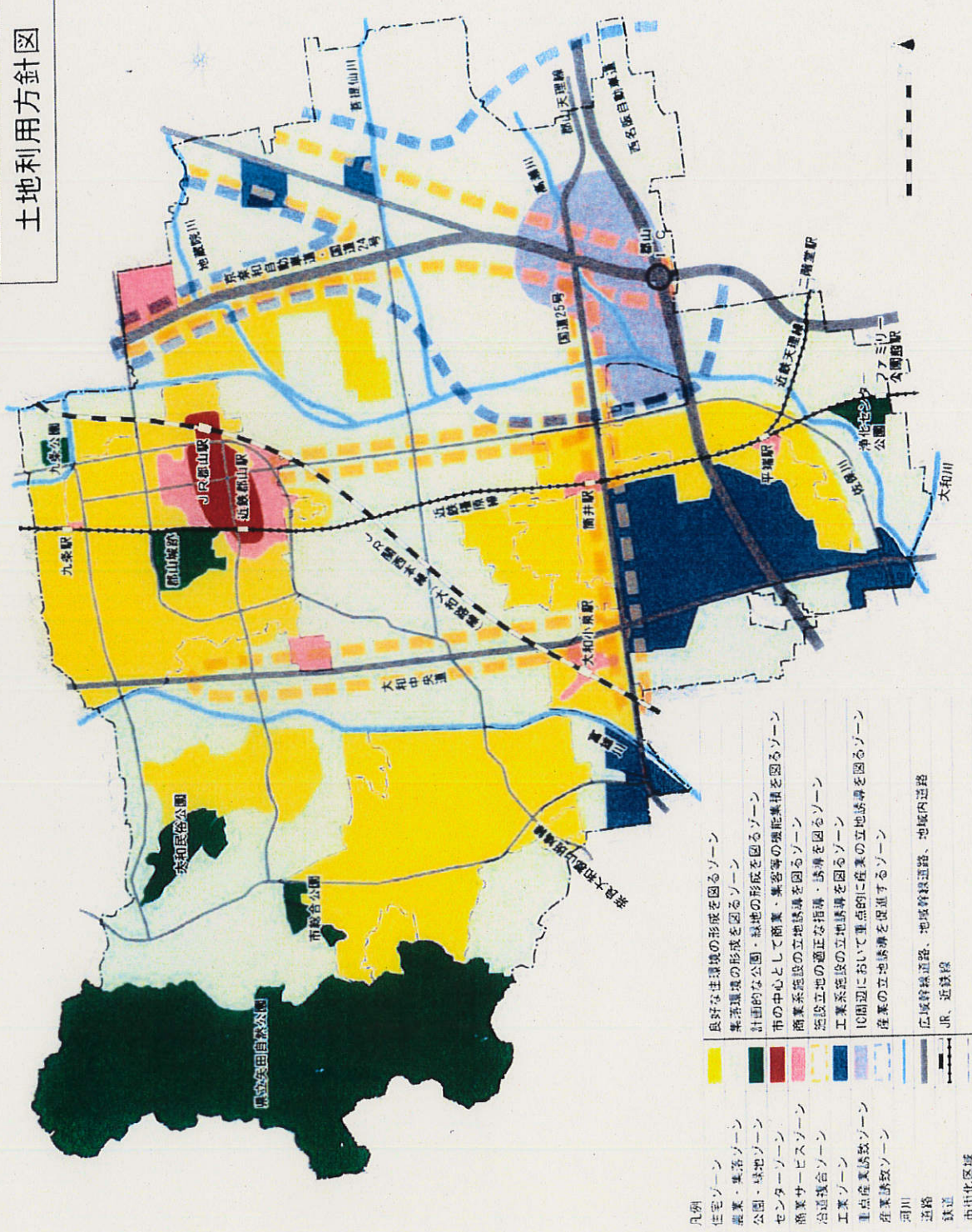
本市の土地利用規制は都市計画法の都市計画区域、市街化区域及び市街化調整区域、風致地区*をはじめ、その他関連法の適用により、秩序ある土地利用の規制誘導が図られています。



凡 例	
行政区域界	都市計画道路
市街化区域界	用途地域界
高気圧区域界	第一種低層住居専用地域
第一種中高層住居専用地域	第一種住居地域
第二種住居地域	準住居地域
近隣商業地域	商業地域
準工業地域	工業地域
工業専用地域	第一種風致地区
第二種風致地区	第三種風致地区
第四種風致地区	第五種風致地区
準防火地域	生産緑地
都市計画公園・緑地	都市計画施設
市街化調整区域	自然公園区域
土地区画整理基金	

都市計画図

土地利用方針図



- 凡例
- 住宅ゾーン
 - 農業・集落ゾーン
 - 公園・緑地ゾーン
 - センターゾーン
 - 商業サービスゾーン
 - 治道複合ゾーン
 - 工業ゾーン
 - 重点産業誘致ゾーン
 - 産業誘致ゾーン
 - 河川
 - 道路
 - 鉄道
 - 市街北区域
- 良好な住環境の形成を図るゾーン
 - 集落環境の形成を図るゾーン
 - 計画的な公園・緑地の形成を図るゾーン
 - 市の中心として商業・集落等の機能集積を図るゾーン
 - 商業系施設の立地誘導を図るゾーン
 - 施設立地の適正な指導・誘導を図るゾーン
 - 工業系施設の立地誘導を図るゾーン
 - IC周辺において重点的に産業の立地誘導を図るゾーン
 - 産業の立地誘導を促進するゾーン
 - 広域幹線道路、地域幹線道路、地域内道路
 - 市、近隣市

学校の適正規模・適正配置に関する アンケート調査について

学校長の皆様には、日頃より本市の教育にご尽力いただき、ありがとうございます。

近年、全国的な少子化の進展に伴う学校の小規模化に伴い、教育上・学校運営上の様々な課題が指摘されております。本市においても児童生徒数は減少傾向にあります。こうした問題を受け、大和郡山市では、児童生徒にとって望ましい教育環境の確保と少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて、大和郡山市学校規模適正化等審議会を設置し、学校の適正な規模や配置等について調査審議をすすめております。

このアンケート調査は、日頃から教育に携わる皆様にご意見をお伺いし、「子どもたちのより良い教育環境づくり」を検討するために、実施させていただくものです。

大変お忙しい中、恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

学校名	《学校名》		
校長名	《校長名》	電話番号（連絡先）	《電話番号》

※ご記入にあたっての注意事項

1. 項目に関連する資料がございましたら、添付をお願いいたします。
2. 数値等を記入される場合は「いつ」、「どの資料から」ということをご記入ください。
3. 【問16】は中学校のみ
それ以外の問は、小学校・中学校の現職に関わらず、全ての設問にご回答下さい。
4. ご記入いただいた調査票は、**9月28日（金）までに**下記までご提出ください。

○お問い合わせ先
大和郡山市学校規模適正化等審議会事務局 教育総務課 総務係
電話：0743-53-1151（内713）

問1 自身が勤務する学校（以下「自校」という）の学年ごとの1学級あたりの児童生徒数（複数学級の場合は平均、端数切捨て）をご記入下さい。

（H30.9.1 現在）

1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	特別支援学級
()	()	()	()	()	()	()

問2 自校の1学級あたりの児童生徒数について、①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）②教育環境（施設、設備、教職員数など）の面から、それぞれどのように感じておられますか？（一つに○）。

①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| 1. 適正規模である | 2. 適正規模ではない |
| 3. どちらとも言えない（学年によって状況が異なるため など） | |

②教育環境（施設、設備、教職員数など）

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| 1. 適正規模である | 2. 適正規模ではない |
| 3. どちらとも言えない（学年によって状況が異なるため など） | |

問3 問2の回答に対し、それを選択された理由を、①②それぞれについて、ご記入下さい（問2で「3. どちらとも言えない」を選択された場合も、記入願います）。

①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）

②教育環境（施設、設備、教職員数など）

問4 自校の学年ごとの学級数（同意数）をご記入下さい。

(H30.9.1 現在)

1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	小計	特別支援学級	合計
()	()	()	()	()	()	()	()	()

問5 自校の1学年あたりの学級数について、①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）②教育環境（施設、設備、教職員数など）の面から、それぞれどのように感じておられますか？（一つに〇）

①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| 1. 適正規模である | 2. 適正規模ではない |
| 3. どちらとも言えない（学年によって状況が異なるため など） | |

②教育環境（施設、設備、教職員数など）

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| 1. 適正規模である | 2. 適正規模ではない |
| 3. どちらとも言えない（学年によって状況が異なるため など） | |

問6 問5の回答に対し、それを選択された理由を①②それぞれについて、ご記入下さい(問5で「3. どちらとも言えない」を選択された場合も、記入願います)。

①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）

②教育環境（施設、設備、教職員数など）

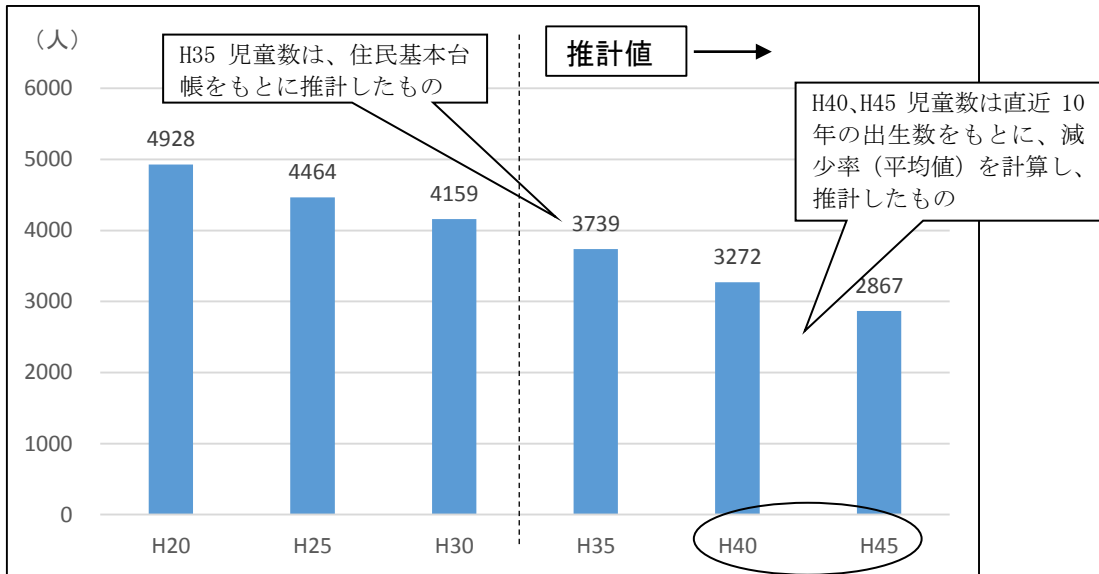
小学校児童数の現状と推移について

《参 考》

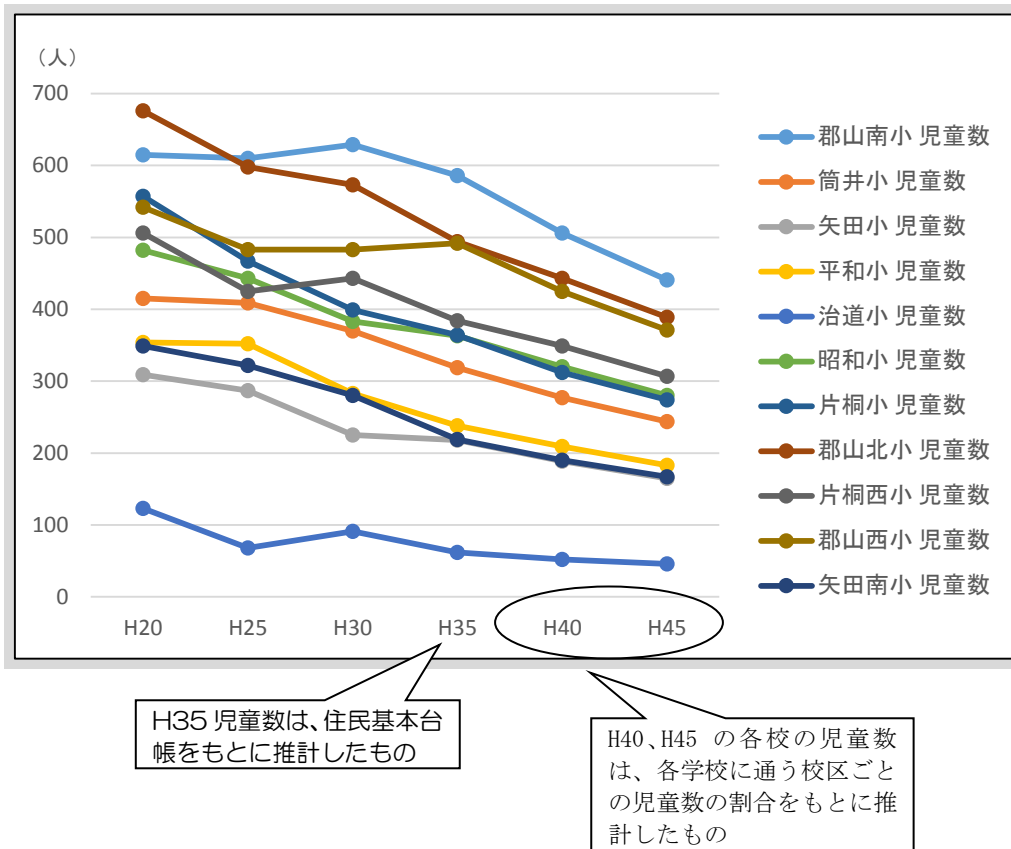
■小学校別学年別児童数、学級数（平成 30 年 5 月 1 日現在）

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	特別支援学級	合計
郡山南小	児童数	101	87	108	108	91	114	609	20	629
	学級数	3	3	3	3	3	4	19	4	23
筒井小	児童数	55	49	69	68	61	56	358	12	370
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	4	16
矢田小	児童数	31	28	37	38	45	43	222	3	225
	学級数	1	1	1	2	2	2	9	2	11
平和小	児童数	37	46	36	50	47	57	273	10	283
	学級数	2	2	1	2	2	2	11	2	13
治道小	児童数	11	22	13	11	9	20	86	5	91
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	7
昭和小	児童数	65	51	62	65	68	50	361	22	383
	学級数	3	2	2	2	3	2	14	5	19
片桐小	児童数	58	66	58	61	65	72	380	19	399
	学級数	2	2	2	2	3	3	14	4	18
郡山北小	児童数	94	105	85	85	90	94	553	20	573
	学級数	3	4	3	3	3	3	19	4	23
片桐西小	児童数	55	73	67	77	73	80	425	18	443
	学級数	2	3	3	3	3	3	17	3	20
郡山西小	児童数	94	72	78	68	84	71	467	16	483
	学級数	3	3	3	3	3	3	18	4	22
矢田南小	児童数	38	33	52	44	51	55	273	7	280
	学級数	2	1	2	2	2	2	11	2	13

■ 小学校児童数の推移（全体）



■ 小学校児童数の推移（学校別）



※治道小学校は、H24～小規模特認校に指定。H35以降の児童数は、校区内の児童数のみを推計したもの

問7 1学級あたりの児童数は何人程度が望ましいと思いますか。(一つに〇)

1. 10人以下	2. 11~20人	3. 21人~30人
4. 31~40人		

問8 問7の「小学校1学級あたりの望ましい児童数」を選んだ理由として、以下の各項目について、どのように考えられていますか。(①~⑩それぞれ一つに〇)

	重視する	やや重視する	あまり重視しない	重視しない
① 学級内で、互いに切磋琢磨できる環境が作れる	1	2	3	4
② 先生が目が一人ひとりに行き届く	1	2	3	4
③ 集団内において様々な役割分担を経験できる	1	2	3	4
④ 学級内の絆が強まる	1	2	3	4
⑤ 社会性や協調性を育む機会に恵まれる	1	2	3	4
⑥ 児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる	1	2	3	4
⑦ 学校行事や学習等において、多様な教育活動ができる	1	2	3	4
⑧ 学級内の人間関係に変化がもてる	1	2	3	4
⑨ 施設・設備を余裕をもって利用することができる	1	2	3	4
⑩ その他 []	1	2	3	4

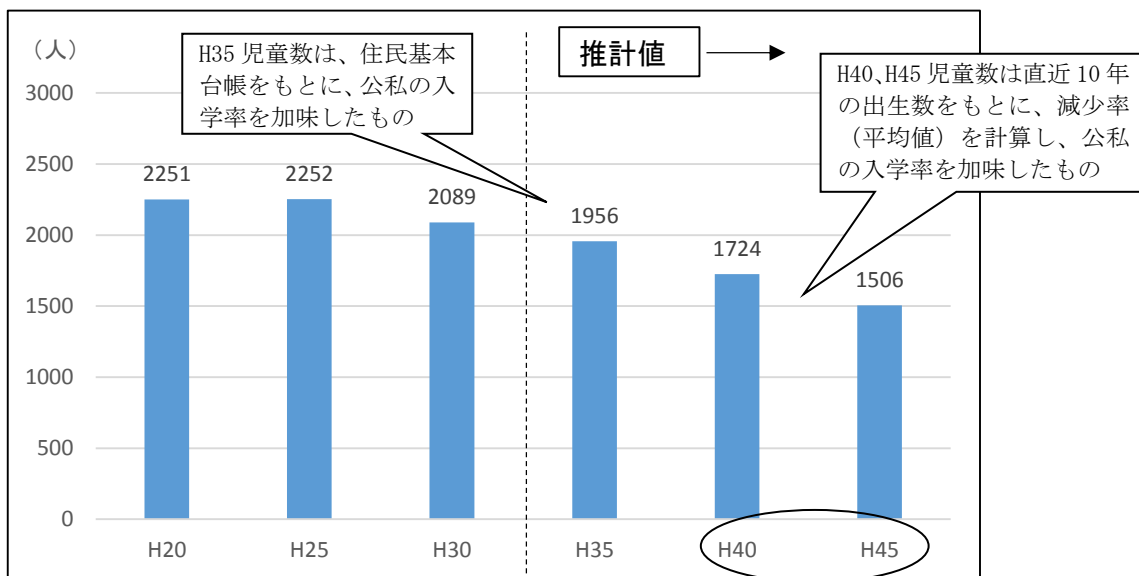
中学校生徒数の現状と推移について

《参 考》

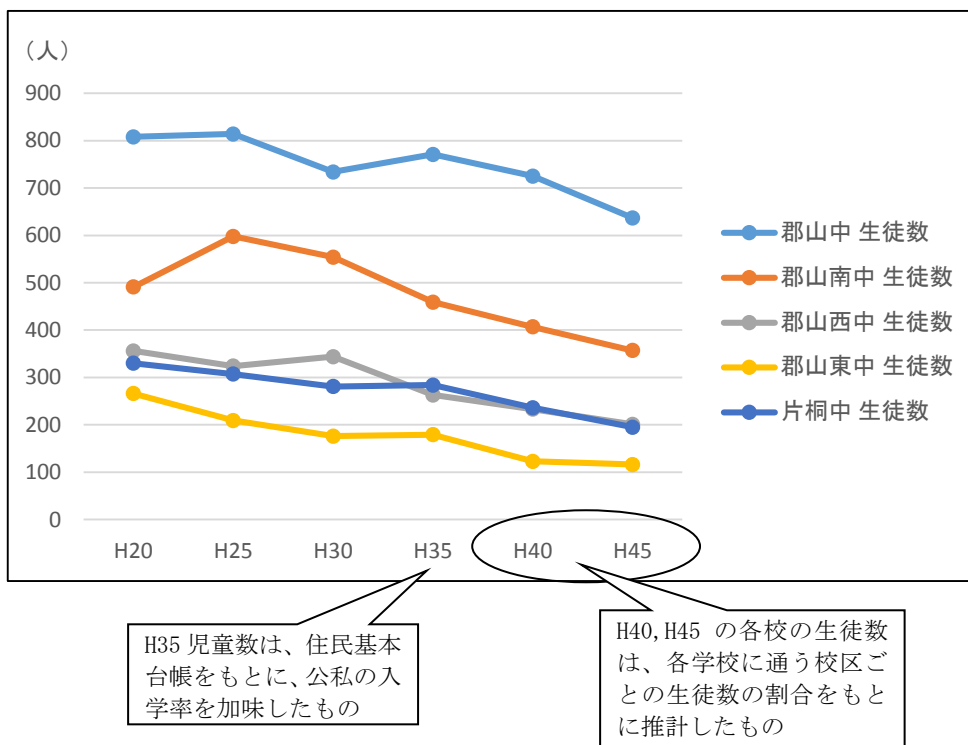
■中学校別学年別生徒数、学級数（平成 30 年 5 月 1 日現在）

		1	2	3	小計	特別支援学級	計
郡山中	児童数	230	242	248	720	14	734
	学級数	7	7	7	21	3	24
郡山南中	児童数	167	178	192	537	17	554
	学級数	5	6	6	17	5	22
郡山西中	児童数	105	109	122	336	8	344
	学級数	4	4	4	12	3	15
郡山東中	児童数	55	54	64	173	3	176
	学級数	2	2	2	6	2	8
片桐中	児童数	90	90	91	271	10	281
	学級数	3	3	3	9	4	13

■中学校生徒数の推移（全体）



■中学校生徒数の推移（学校別）



問11 1学級あたりの生徒数は何人程度が望ましいと思いますか。(一つに○)

1. 10人以下	2. 11～20人	3. 21人～30人
4. 31～40人		

問12 問11の「中学校1学級あたりの望ましい生徒数」を選んだ理由として、以下の各項目について、どのように考えられていますか。(①～⑩それぞれ一つに○)

	重視する	やや重視する	あまり重視しない	重視しない
① 学級内で、互いに切磋琢磨できる環境が作れる	1	2	3	4
② 先生が目が一人ひとりに行き届く	1	2	3	4
③ 集団内において様々な役割分担を経験できる	1	2	3	4
④ 学級内の絆が強まる	1	2	3	4
⑤ 社会性や協調性を育む機会に恵まれる	1	2	3	4
⑥ 生徒一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる	1	2	3	4
⑦ 学校行事や学習等において、多様な教育活動ができる	1	2	3	4
⑧ 学級内の人間関係に変化がもてる	1	2	3	4
⑨ 施設・設備を余裕をもって利用することができる	1	2	3	4
⑩ その他 []	1	2	3	4

問13 1学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいと思いますか。(一つに○)

1. 1学級	2. 2～3学級	3. 4～6学級
4. その他		

問14 問13の「中学校1学年あたりの望ましい学級数」を選んだ理由として、以下の各項目について、どのように考えられていますか。(①～⑪それぞれ一つに○)

	重視する	やや重視する	あまり重視しない	重視しない
① 学級同士が切磋琢磨できる環境が作れる	1	2	3	4
② 異学年間の縦の交流が生まれやすい	1	2	3	4
③ 学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる	1	2	3	4
④ 生徒一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる	1	2	3	4
⑤ 同じ生徒とずっと同じ学級で過ごせ、お互いの人間関係が深まる	1	2	3	4
⑥ 様々な個性や考え方をもち友達とふれあえる	1	2	3	4
⑦ ゆとりのある教育が受けられる	1	2	3	4
⑧ クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる	1	2	3	4
⑨ 部活動の選択の幅が広がる	1	2	3	4
⑩ 学校行事での活躍の場が多くある	1	2	3	4
⑪ その他 []	1	2	3	4

通学距離と時間について

問15 自校へ最も遠い場所から通う児童生徒のおよその通学距離及び通学時間をご記入下さい。

通学距離 () km 通学時間 () 分

問16 自校へ徒歩及び自転車で通う生徒の割合をご記入下さい。

(この問いについては、中学校のみご回答下さい)

徒歩 () % 自転車 () %

問17 小学生と中学生の通学距離(通学時間)は、どの程度までならよいと思いますか。(小学生・中学生それぞれ①～⑧のうち一つに○)

※小学生・中学生両方の欄に○をお願いします。

	小学生	中学生
① 500m (徒歩で約 10 分) まで		
② 1.0km (徒歩で約 20 分) まで		
③ 1.5km (徒歩で約 30 分) まで		
④ 2.0km (徒歩で約 40 分、自転車で約 15 分) まで		
⑤ 3.0km (徒歩で約60分、自転車で約20分) まで		
⑥ 4.0km (徒歩で約 80 分、自転車で約 25 分) まで		
⑦ 5.0km (徒歩で約 90 分、自転車で約 30 分) まで		
⑧ 6.0km (徒歩で約 100 分、自転車で約 40 分) まで		

《参 考》

◆国の基準(昭和33年、文部科学省が学校規模の標準等を設定)

通学距離：小学校でおおむね4km以内、中学校でおおむね6km以内

地域と学校の関わりについて

問18 学校は、地域においてどのような役割を果たしていると思いますか。

(①～⑧それぞれ一つに○)

	そう 思う	ややそ う思う	あまりそう 思わない	そう思 わない
① 避難場所や防災器具・食料備蓄など防災の場	1	2	3	4
② 空き教室利用など地域住民のコミュニティ活動 や住民の場	1	2	3	4
③ 校庭や体育館の開放によるスポーツ活動の場	1	2	3	4
④ 運動会やお祭など地域のコミュニケーションの場	1	2	3	4
⑤ 児童生徒と地域住民が交流する場	1	2	3	4
⑥ 地域の伝統・歴史文化を継承し地域のシンボル となる場	1	2	3	4
⑦ 児童生徒の放課後の活動の場 (放課後子ども教室・学童保育所等)	1	2	3	4
⑧ その他 ()	1	2	3	4

教育環境の課題について

問 19 今後、さらに児童生徒数が少なくなることが想定されます。これからの大和郡山市における活力ある学校づくりに向けて、どのように検討を進めていくことがよいと思いますか。(①～⑤それぞれ一つに○)

	そう 思う	ややそ う思う	あまりそう 思わない	そう思 わない
① 児童生徒数や学級数について学校間で差が生じても、現在の学校数のままでよい	1	2	3	4
② 通学区域を見直して、適正な児童生徒数を確保する	1	2	3	4
③ 学校を統合し、適正な児童生徒数を確保する	1	2	3	4
④ 小中一貫校、義務教育学校を設置する	1	2	3	4
⑤ その他 ()	1	2	3	4

問 20 大和郡山市の学校の適正規模・適正配置について、自由に意見をご記入下さい。

問 21 大和郡山市の教育において、将来どのような児童生徒の育成を目指し、力を入れていくべきかと思いませんか。

ご協力ありがとうございました。